

ふるさと再発見 第92回

Re:discovery Omihachiman

安土城築城450年⑤

信長と娯楽

一説に派手好き、新しいもの好きとされる織田信長は、安土で趣向を凝らした多くの賑やかな娯楽や催しを行っています。今回は信長が安土で催した行事の中から「相撲」と「盂蘭盆会」を紹介します。

大の相撲好きとしても知られる信長は、安土でたびたび相撲を開催しています。安土で初めて相撲を行ったのは、安土城築城以前の元亀元（1570）年3月3日のことです。『信長公記』には、常楽寺に近江の国中の力士を集めて相撲を取らせ、その様子を観覧したことが記されています。安土城築城後は、相撲の舞台は安土城へ移ります。『信長公記』によると、天正6（15



信長が催した常楽寺相撲のモニュメント

78）年から天正9年までの間に、安土城で計11度相撲を催したことが記録されています。この相撲には、近江だけでなく京都の力士や家臣が抱える力士も参加し、時には行司を含め1500人もの人を集めて盛大に開催されています。優れた取り

組みを見せた力士には太刀や脇差、着物、所領百石、屋敷が褒美として与えられ、中には信長の家臣として召し抱えられる者もいました。

相撲にまつわる伝承は、『信長公記』だけでなく、地域の古文書にも残されています。天正9年正月15日、信長は城下の松原で馬揃え、爆竹（左義長）を行った後、青年武士らを東西に分けてさまざまな競争をさせています。その際、西方より常楽寺の右馬次郎、東方より豊浦行実の子孫の伝蔵が進み出て、爆竹に使われた竹で「竹相撲」を行っています。両者の技量は拮抗し、ついには苴竹が振りつぶされるほどの熱戦となりました。信長はその勝負に感銘し、さまざまな褒美とともに右馬次郎に「西」を、伝蔵には「東」の姓を授けたと伝えられています。これが、現在の大相撲に伝わる「東」と「西」の起源といわれています。新宮神社（安土町下豊浦）には、平成27年に竹相撲の様子を描いた絵馬が奉納され、拜殿に飾られています。

また、信長が初めて行ったといわれているものが「盂蘭盆会」



「盂蘭盆会」内堀から望む天守

でのライトアップです。この時の様子は宣教師の書簡や『信長公記』に記されています。天正9年7月15日、帰国する巡察使アレックスサンドロ・ヴァリニャーノを見送るため、安土城の天主と惣見寺に数多くの提灯を吊るし、堀には船を浮かべ松明を灯させました。安土城下一帯は明かりに包まれ、提灯や松明の光が湖面に反射する様子は、言いようもない美しさで、大勢の見物人が集まったと言われています。「安土城天主信長の館」内のVR安土城シアターでは、この盂蘭盆会の幻想的な光景を映像で再現しています。ぜひご来館いただき、信長が演出した華やかな安土の夜を体感ください。

文（文化振興課・才本）

広報おうみはちまん

令和8年8月号

編集・発行／近江八幡市総合政策部秘書広報課

〒523-8501 滋賀県近江八幡市桜宮町236

TEL: 0748(33)3111 FAX: 0748(32)2695

MAIL: kouhou@city.omihachiman.lg.jp

WEB: <https://www.city.omihachiman.lg.jp>

広報おうみはちまんは、各自治会を通じてお届けします。また、各学区コミュニティセンターや図書館などの公共施設、郵便局、金融機関、セブン-イレブン・ファミリーマート各店舗などに置いているほか、市ホームページやマチイロ、マイ広報紙などでもご覧いただけます。

YouTube



Instagram



マチイロ



マイ広報紙



LINE



人口と世帯

令和8年7月1日現在
()は前月比

総数	81,677人	(- 41)
男	40,159人	(+ 5)
女	41,518人	(- 46)
世帯	36,669世帯	(+ 7)

※外国人住民(43か国・地域/2,442人)を含みます。